

「男女共同参画」に関する市民アンケート調査結果（概要）

網走市における男女共同参画に関する市民の意識についてアンケート調査を行いました。第2次網走市男女共同参画プランの見直しの基礎資料とするために実施したもので、結果は次のとおりです。

1. 調査の内容

(1) 調査対象

市内に居住する満18歳以上の男女1,000人（男性500人、女性500人）

(2) 調査方法

無作為抽出した男女1,000人に郵送によるアンケート調査

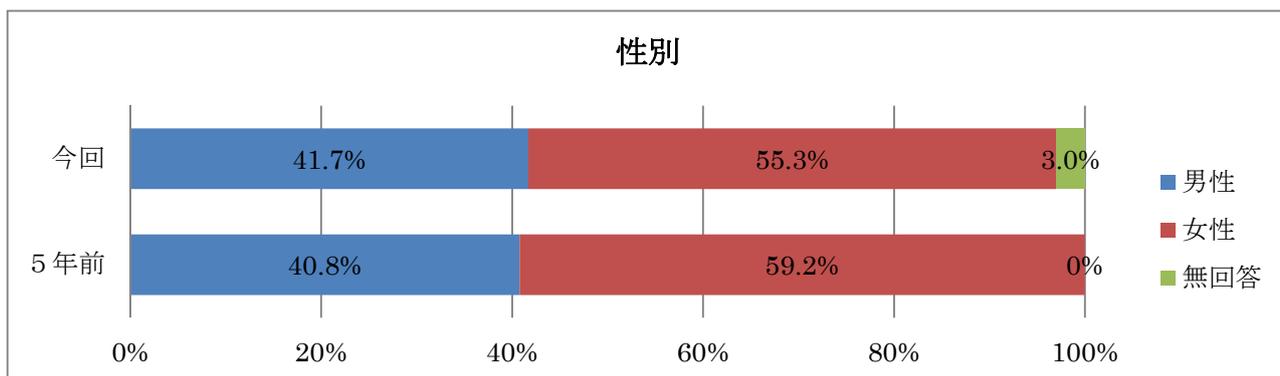
(3) 調査期間

平成29年7月1日から平成29年7月28日

(4) 回答数 295人（男性123人、女性163人、無回答9人） 回答率29.5%

【参考】 平成23年8月26日～9月9日実施 回答数282人（回答率28.2%）

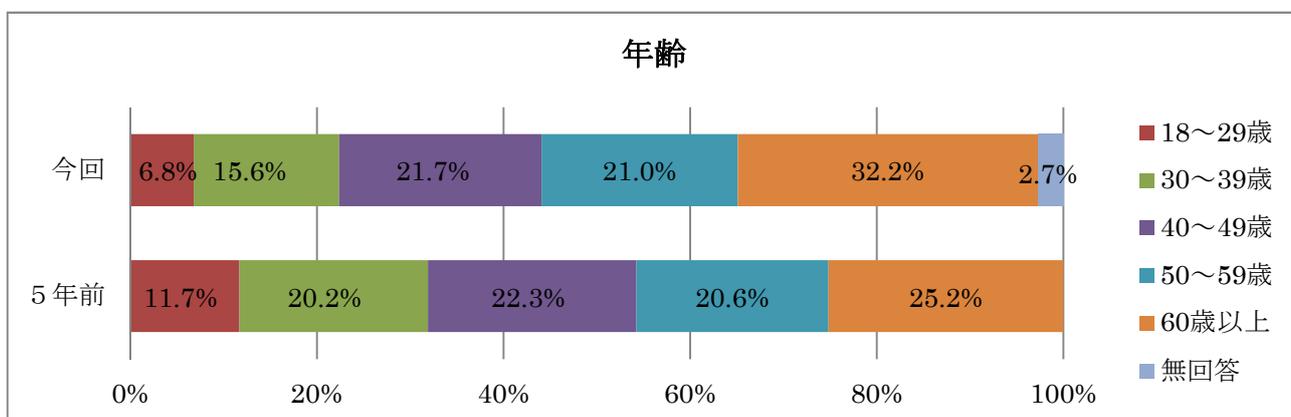
2. 基本事項について



(1) 性別

回答者の割合は、女性が多く、5年前とほぼ同様の割合となりました。

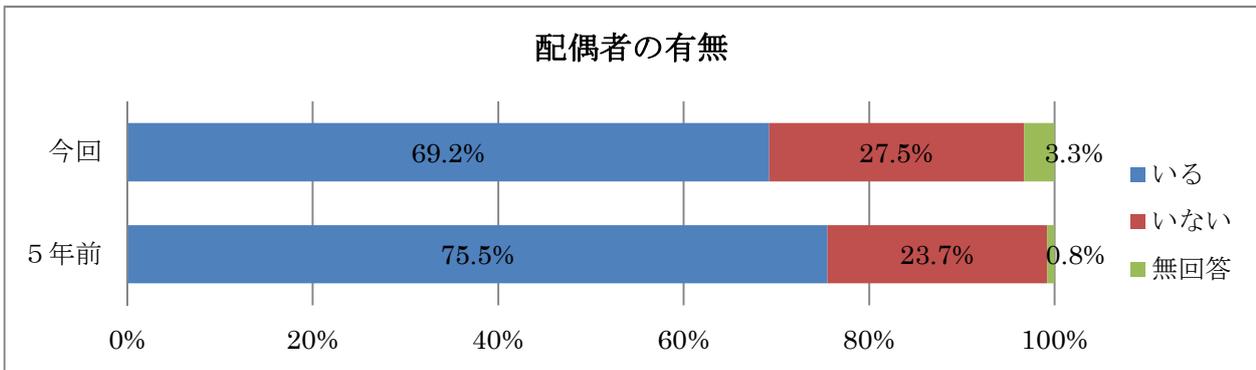
(2) 年齢（平成29年7月1日時点）



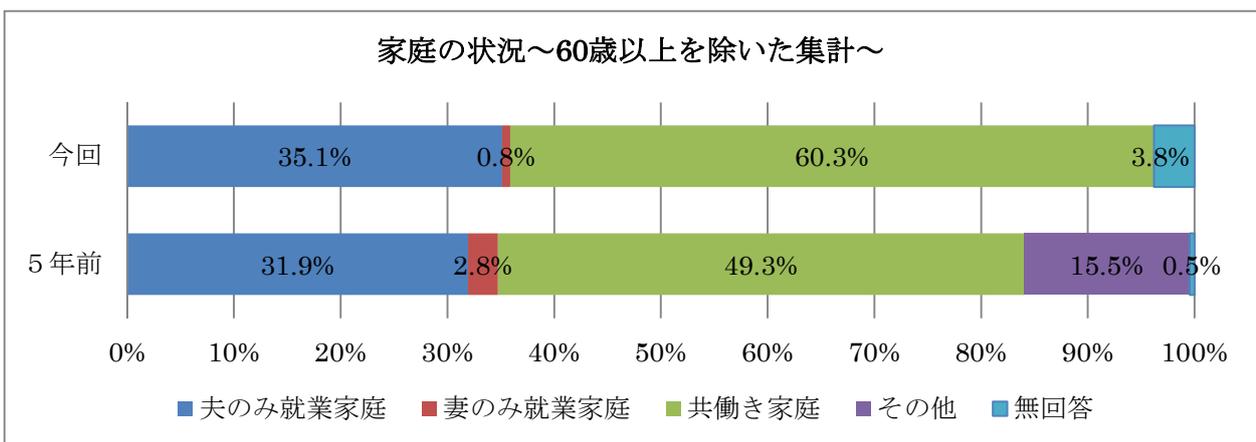
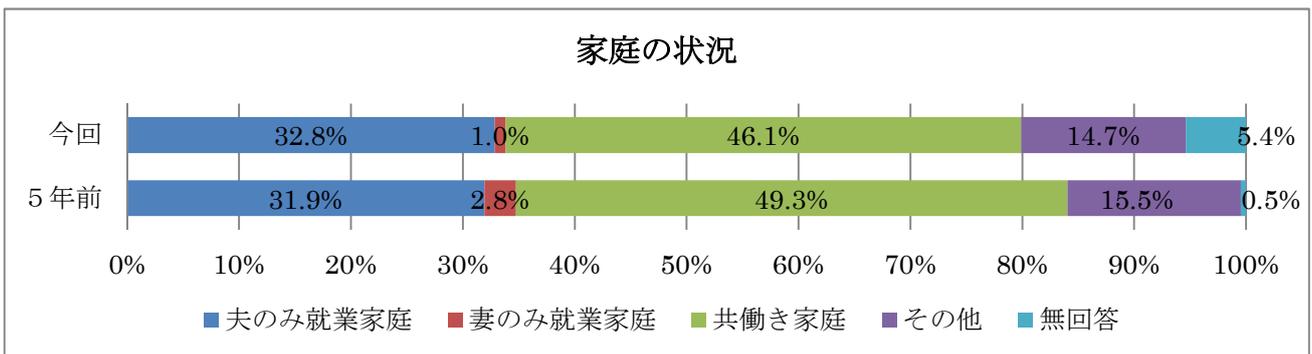
今回実施のアンケートより年齢回答欄に20歳未満の欄を設けましたが、回答者が2人のため、区分を18歳～29歳としました。5年前と比べ、30歳～39歳の割合が減り、60歳以上の割合が増加しています。

(3) - ① 配偶者の有無（事実婚を含む）

5年前と比較すると、配偶者がいる割合が減少しています。



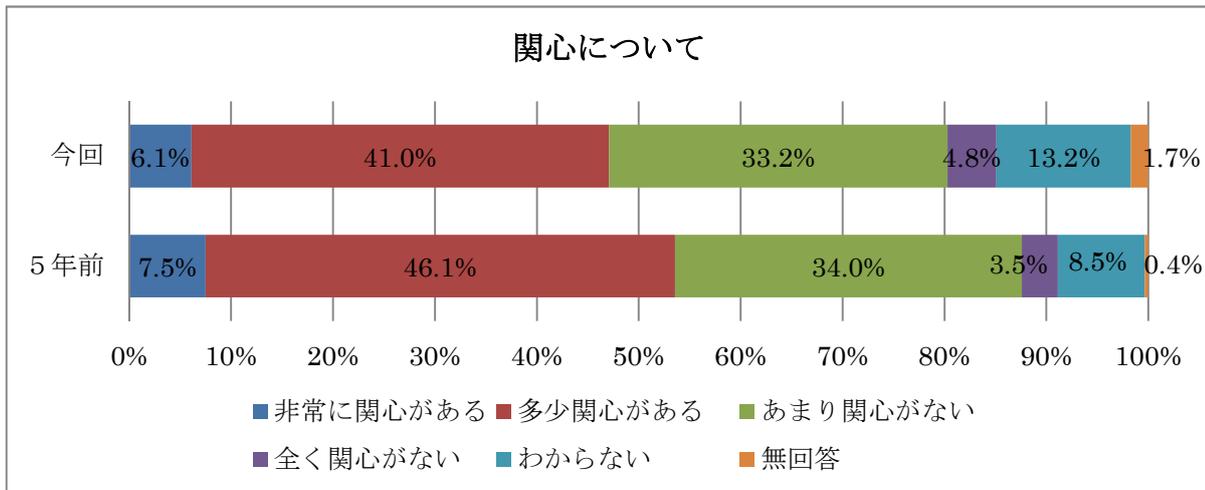
(3) - ② 配偶者がいると回答した人の世帯状況について



上の表では5年前と比較すると共働き家庭の割合が若干減少していますが、60歳以上を除いて集計した下の表では、「共働き家庭」が増加しており、現役世代では共働き家庭が増加している結果となりました。

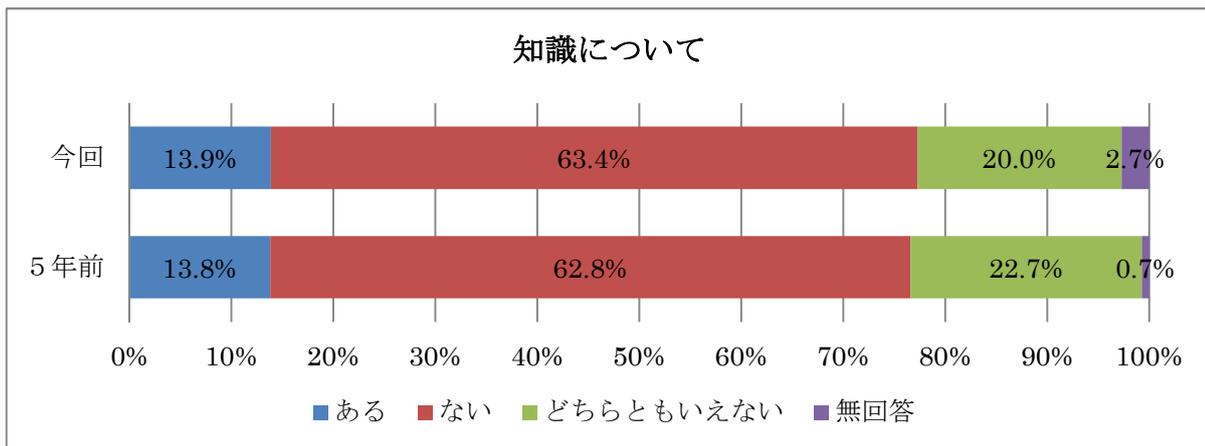
3. 男女共同参画に関する事項

(1) 関心について



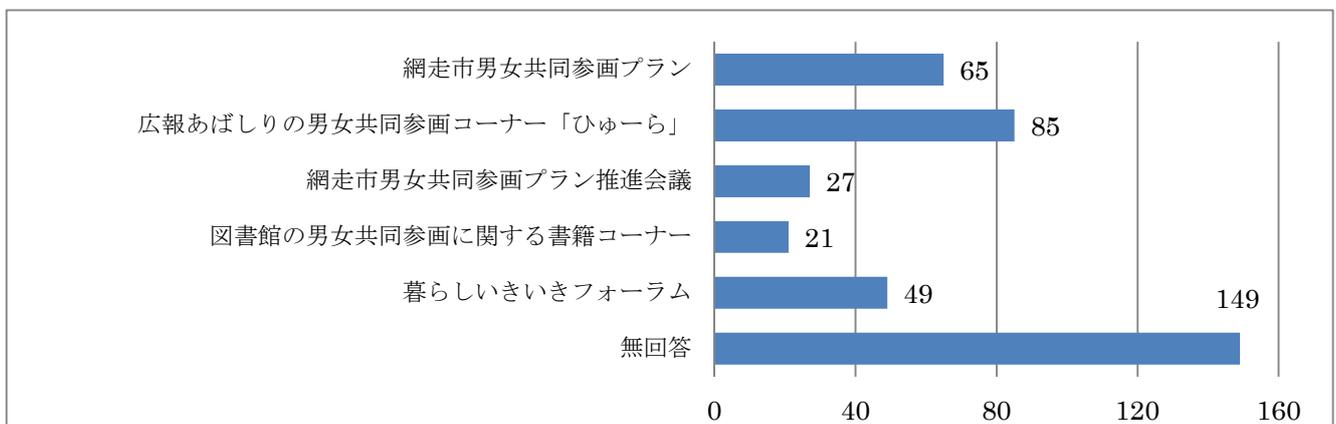
男女共同参画への関心のある割合は、5年前と比較すると減少しています。

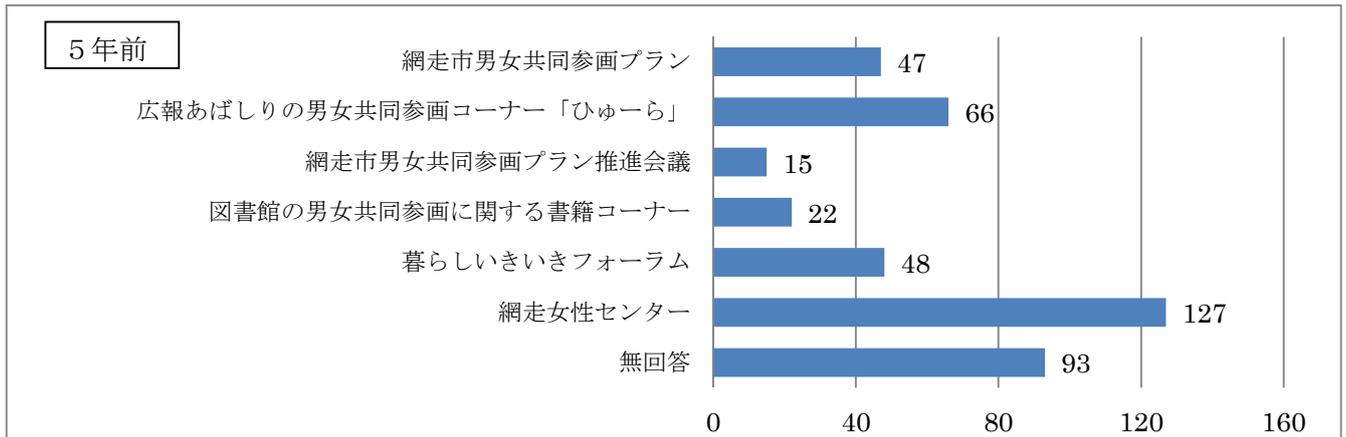
(2) 知識について



知識については、5年前とほぼ同様の割合となりました。

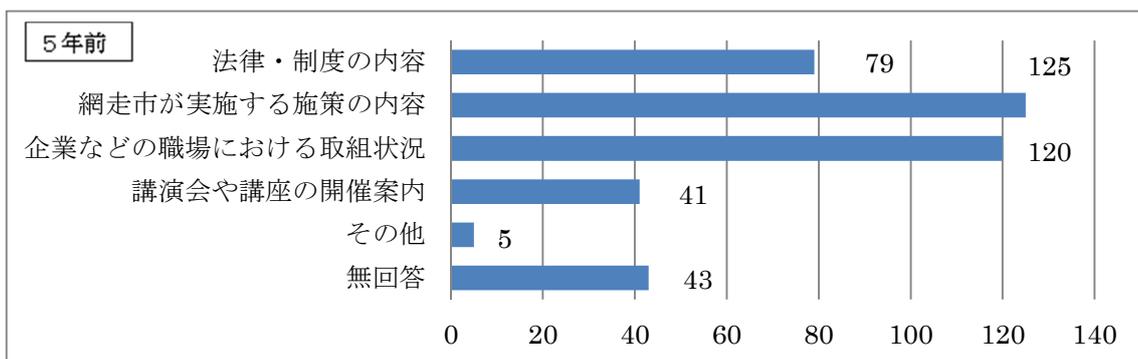
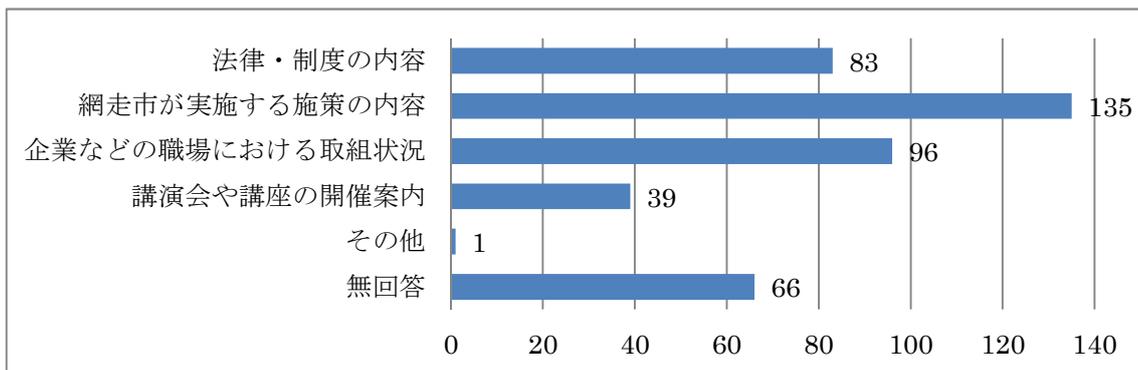
(3) 取組み認知度（複数回答）





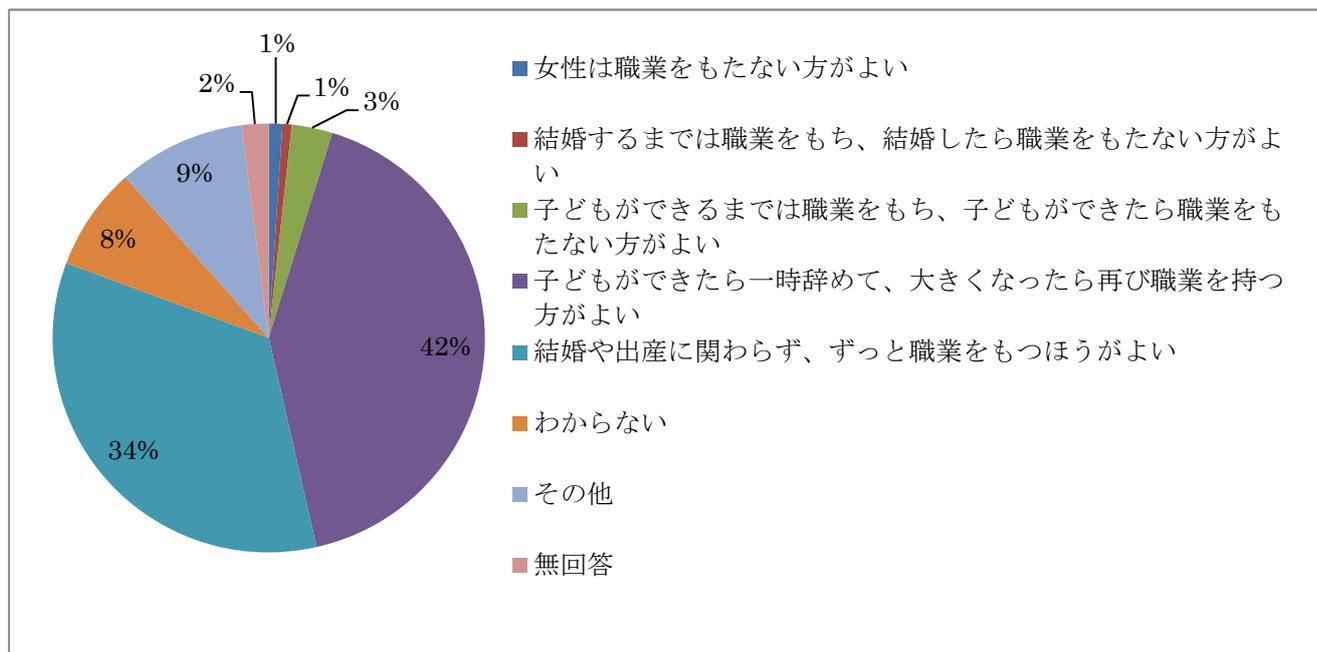
5年前は、女性センターの認知度が最も高いという結果となりましたが、施設の廃止により、認知度が最も高いものは、広報あばしりの男女共同参画コーナー「ひゅーら」となりました。また、無回答（知っているものがない）の人が増加していることがわかります。

(4) 知りたい情報（複数回答）



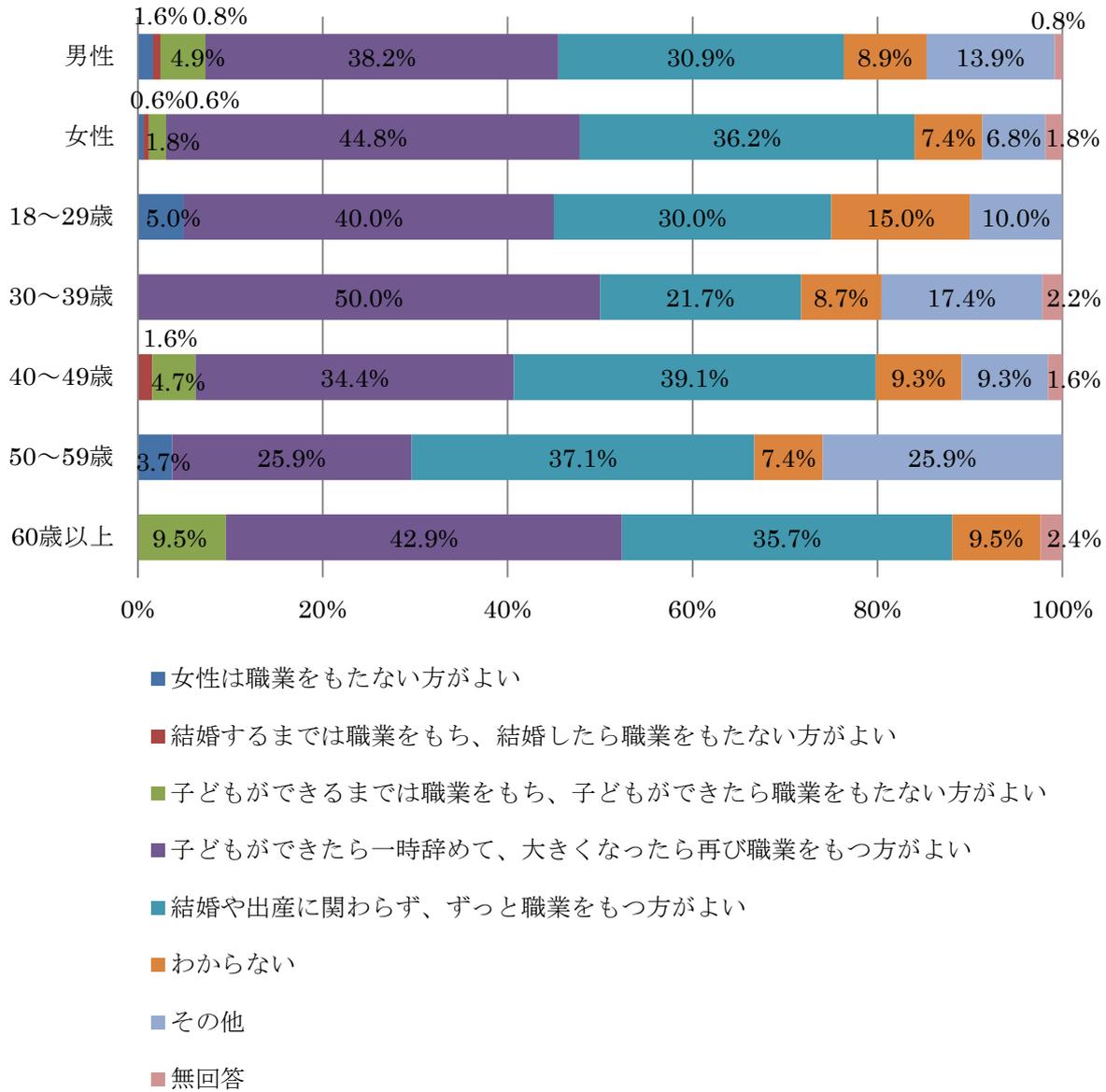
「網走市が実施する施策の内容」が最も多く、知りたい情報の順は5年前と変化はありませんでしたが、「企業などの職場における取組状況」を知りたいという回答が減少する結果となりました。

(5) 女性の職業との関わり方について



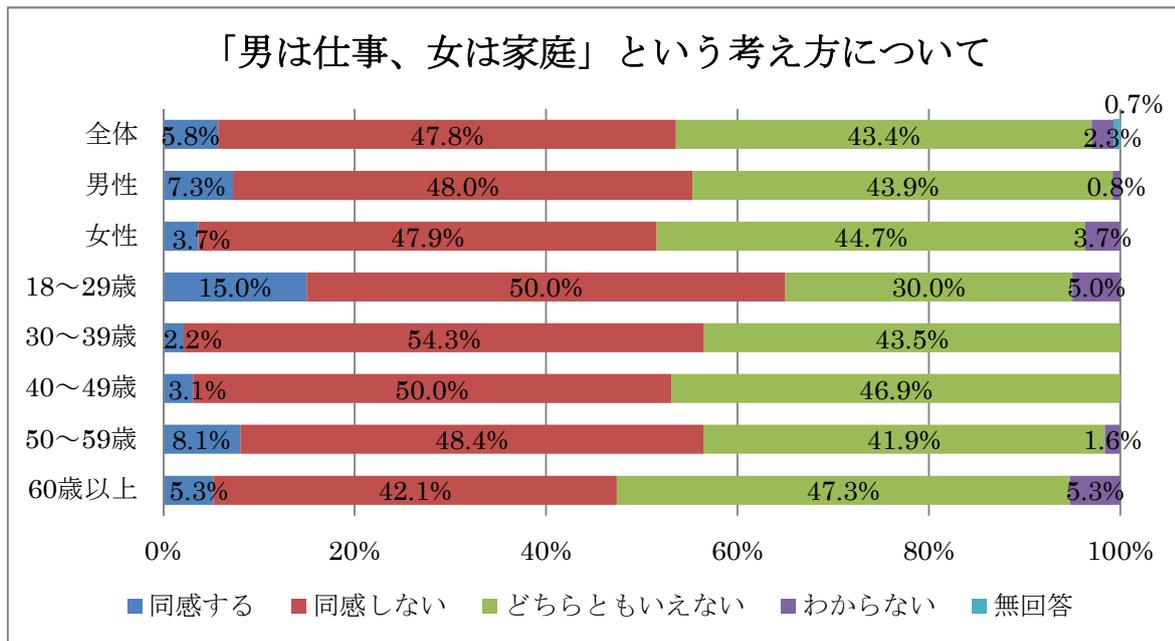
※職業を持つ方がよい年齢・性別ごとの内訳は次のとおり

女性の職業との関わり方（年齢・性別ごとに集計）



全体的に職業をもつ方がよいと思っている割合は7割を超えていました。「女性は職業をもたない方がよい」と回答したのは、18～29歳と50～59歳でした。また「結婚するまでは職業をもち、結婚したら職業をもたない方がよい」と回答したのは、40～49歳のみでした。

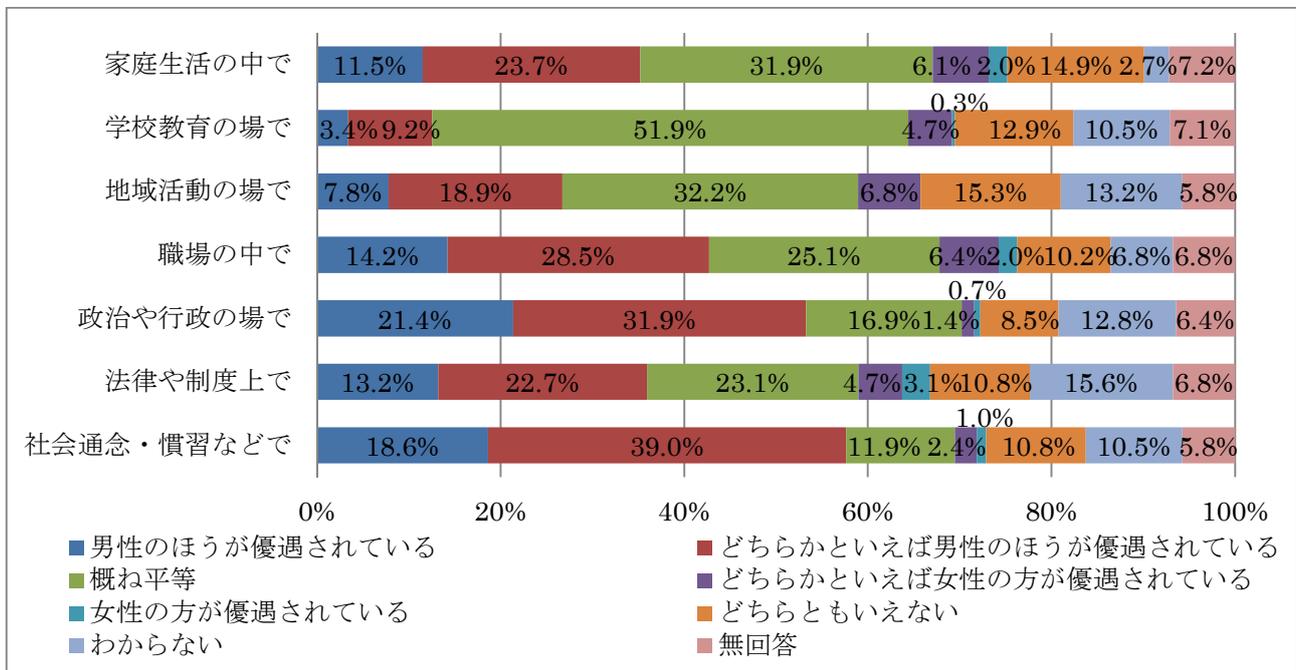
(6) 「男は仕事、女は家庭」という考え方について



年齢層に関わらず、「同意しない」と思っている割合が多く、「男は仕事、女は家庭」という考えは、古いということが感じられる結果となりました。男女差はほとんど見られませんでした。

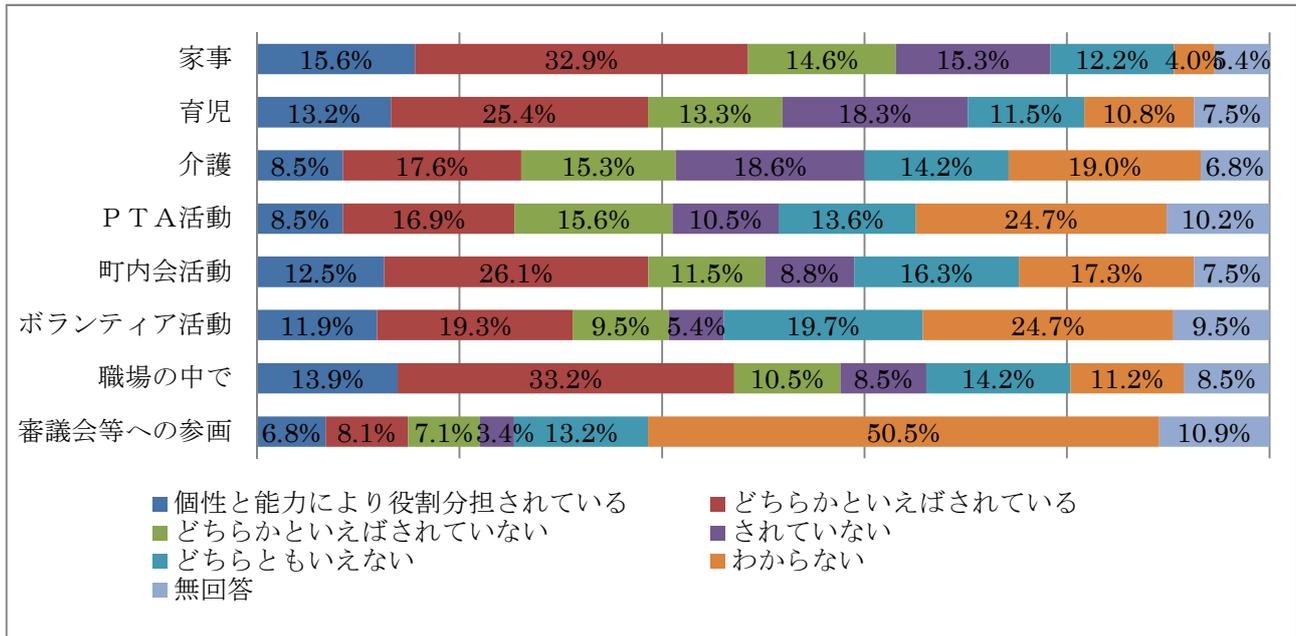
4. 男女平等の視点から

(1) 家庭・職場・地域社会の参画について



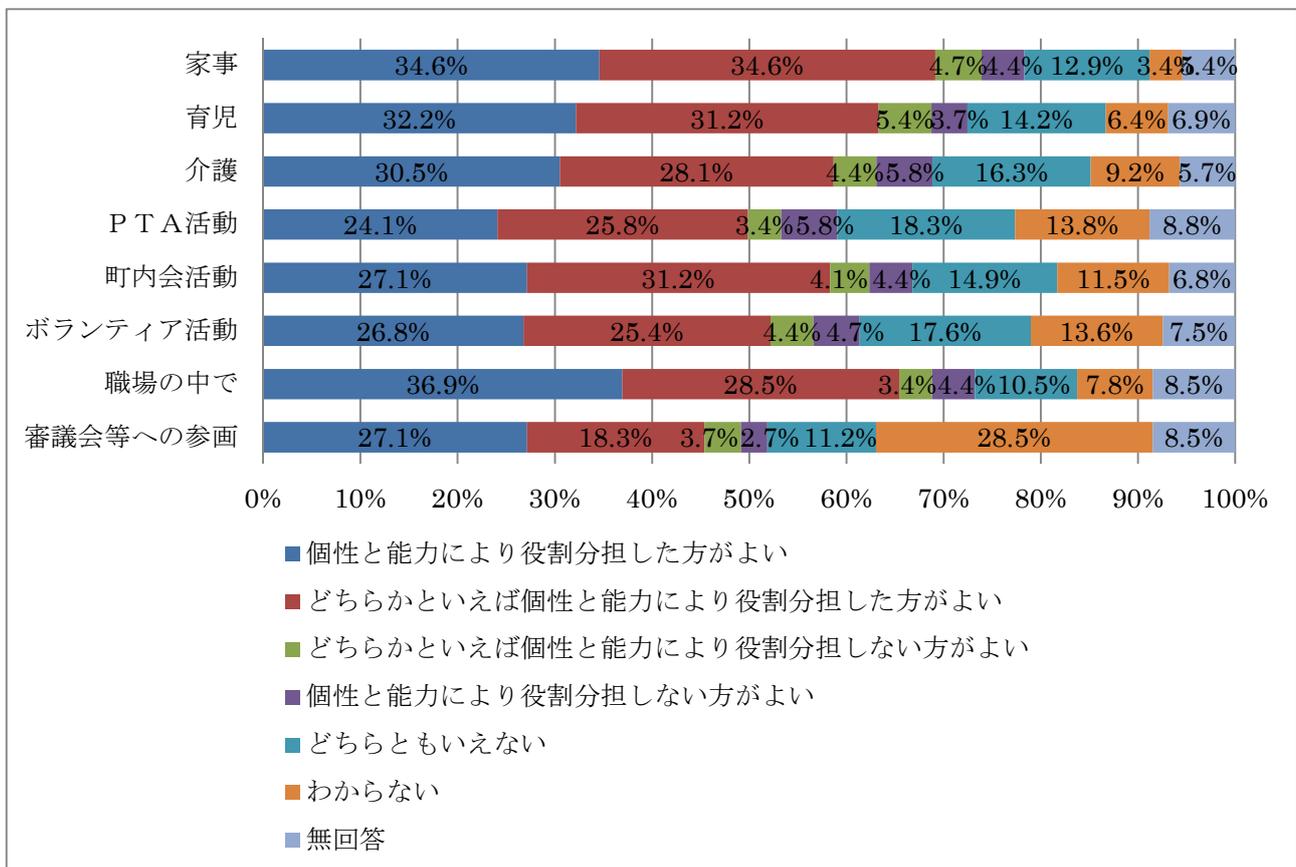
男性が優遇されていると回答した割合は「政治や行政の場」、「社会通念・慣習」が多く、女性が優遇されていると回答した割合は全体的に低い結果となりました。また、「家庭生活の中で」、「学校教育の場で」、「地域活動の中で」は概ね平等と回答した割合が高い結果となりました。

(2) 「女性も男性も、性別ではなく個性と能力により役割分担すること」について
～自分自身の経験から～



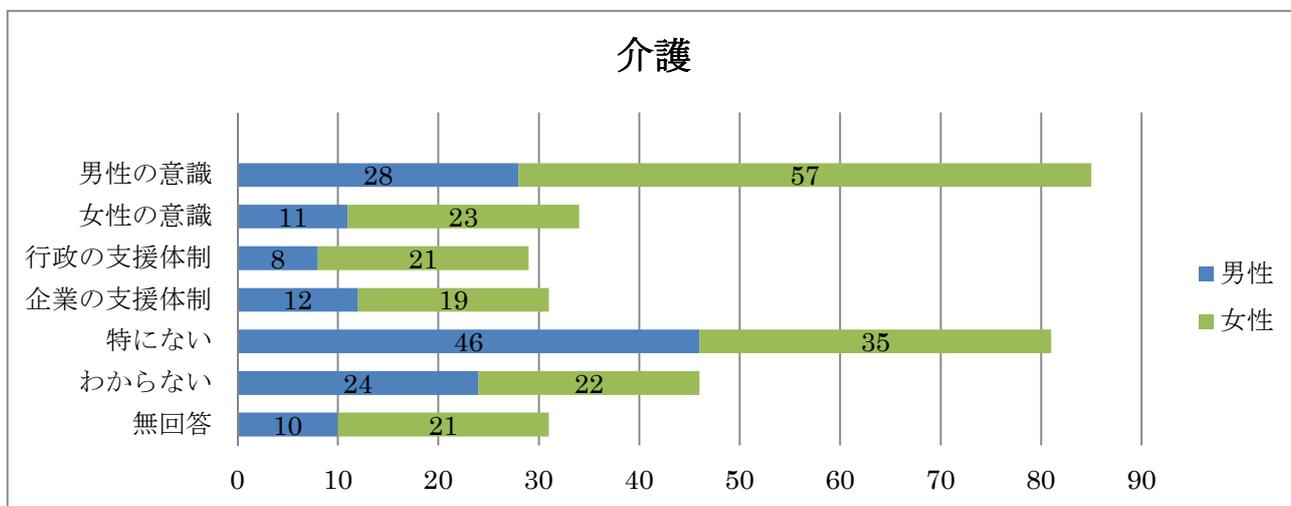
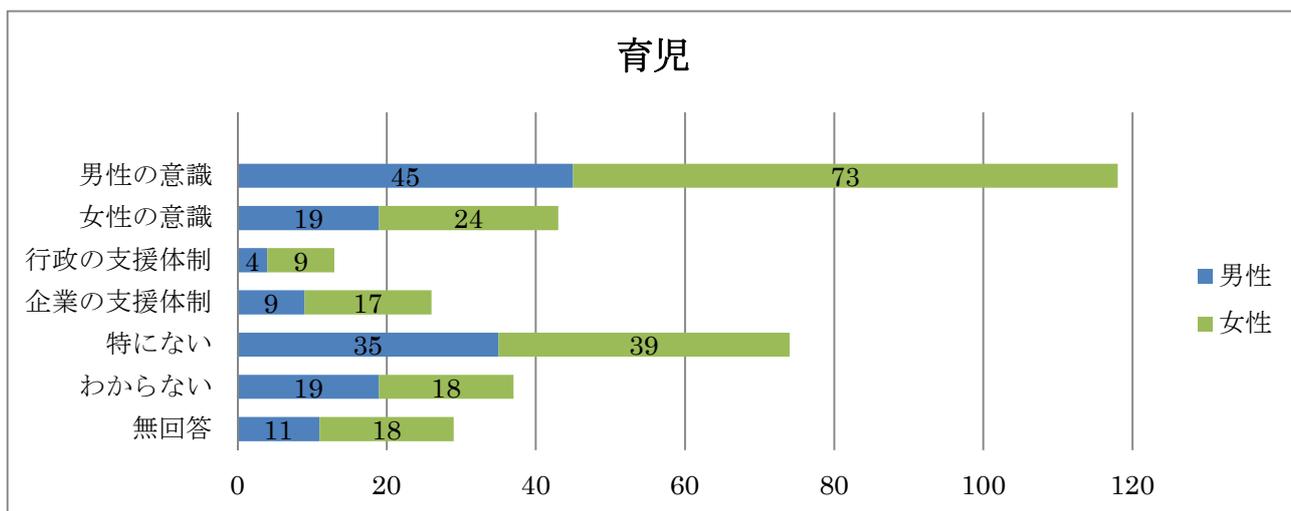
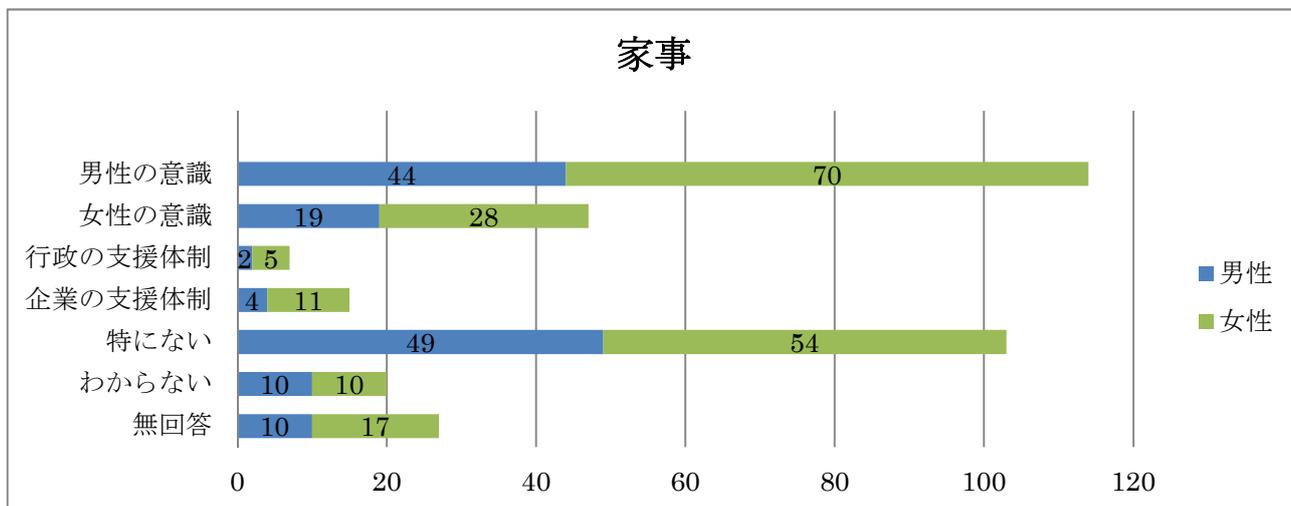
「介護」、「PTA 活動」、「審議会等への参加」では、役割分担されていると回答した割合が低い結果となりました。

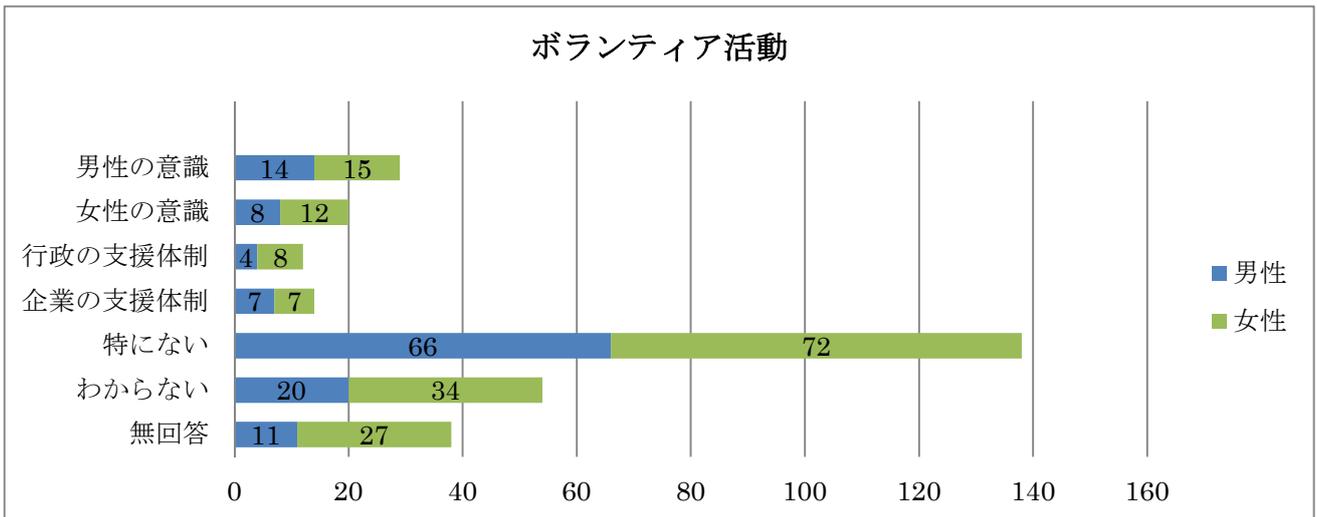
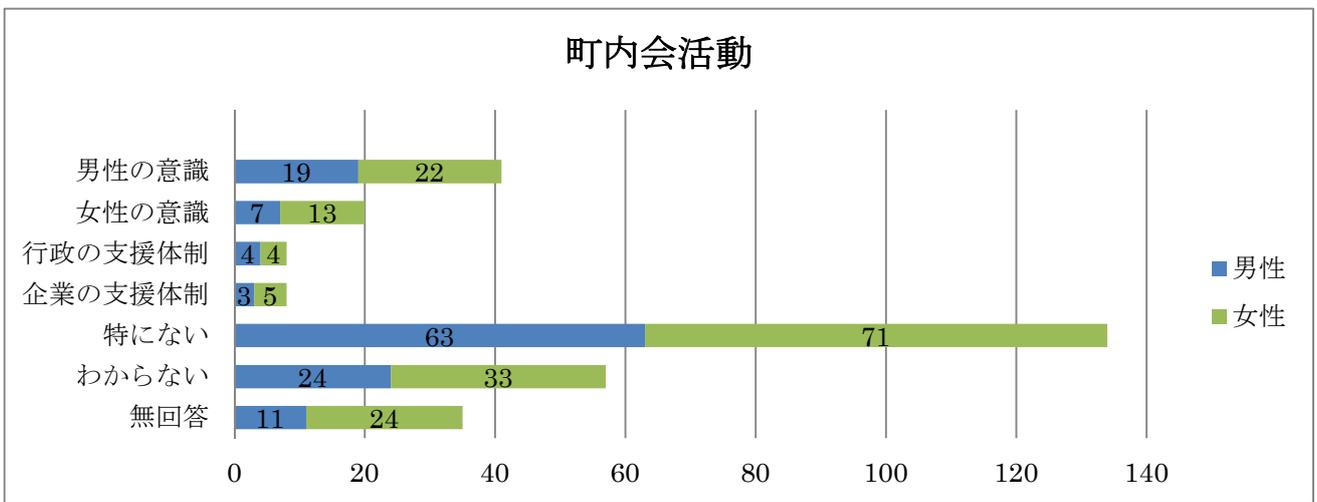
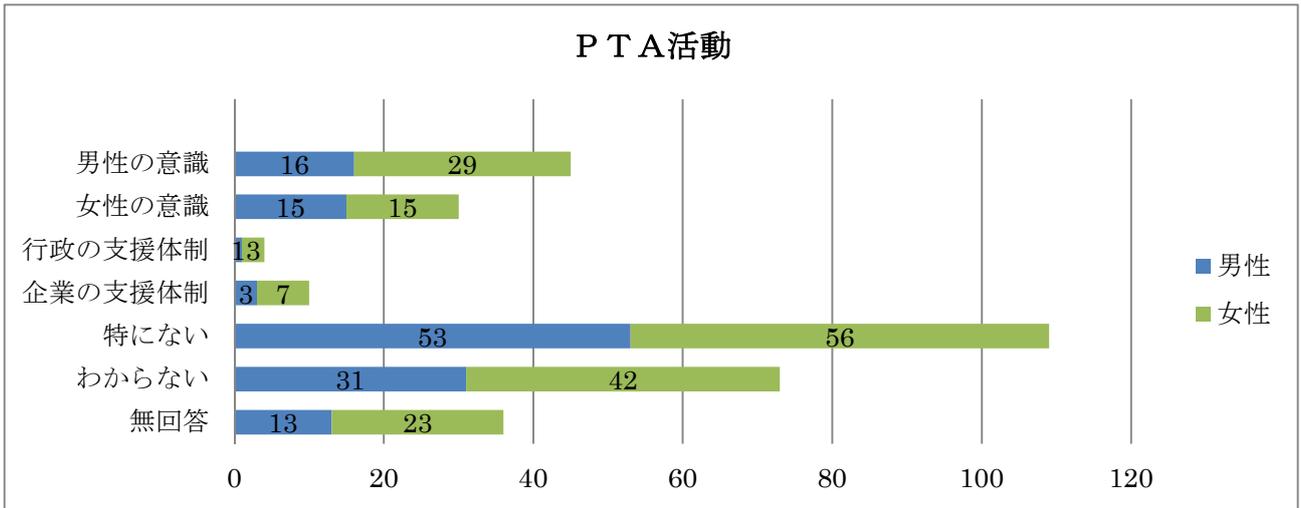
(3) 「女性も男性も、性別ではなく個性と能力により役割分担すること」について
～どのようにすべきと考えているか～

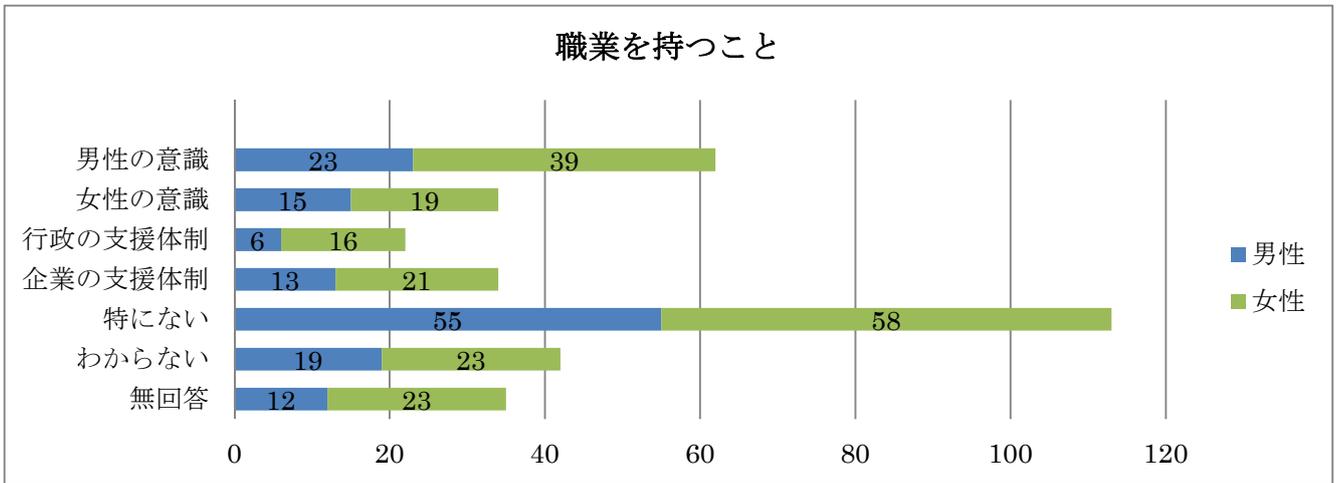
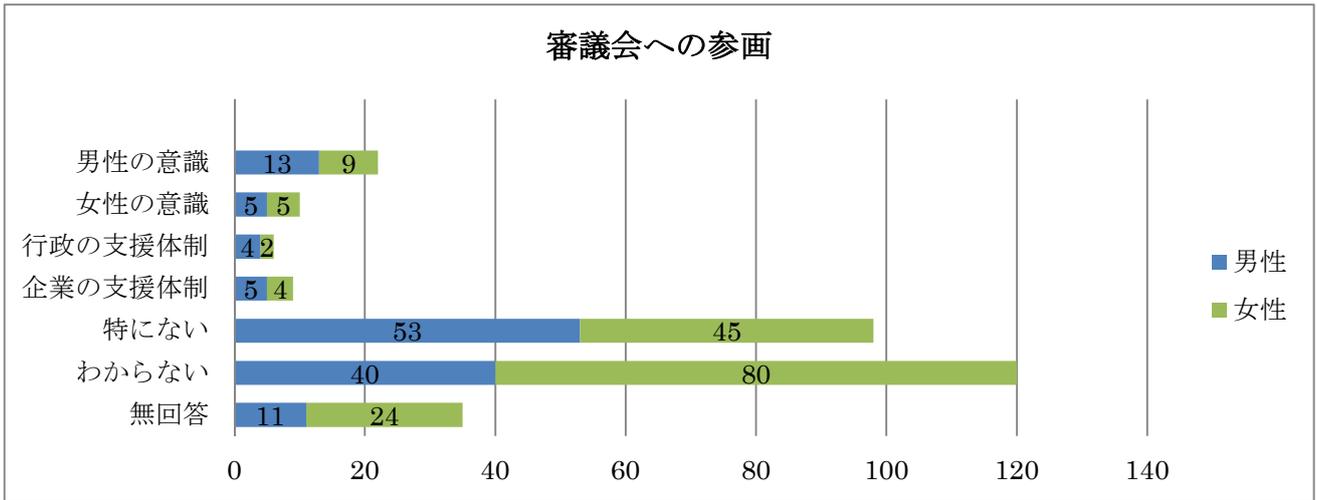


個性と能力により役割分担した方がよいと回答している人が多く、自分自身の経験とどのようにすべきかでは、回答に差が出る結果となりました。

(4) 各分野に参画しようとするとき、妨げているものの原因について

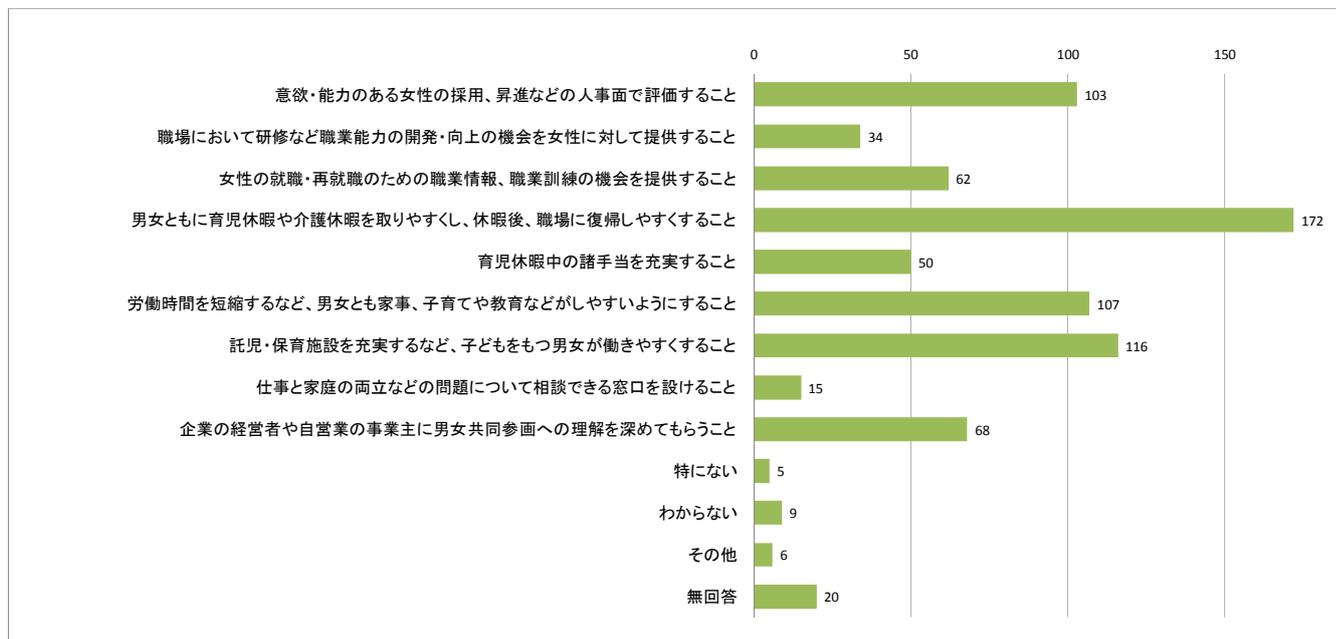






どの分野も特にないと回答した人が多い結果となりました。「家事」「育児」「介護」については、男女ともに「男性の意識」と回答した人が多い結果となりました。

(5) 性別に関わりなく個性と能力を発揮して活動できるようにするために、網走市内での職場で必要な取組みについて【1人3つまで回答】

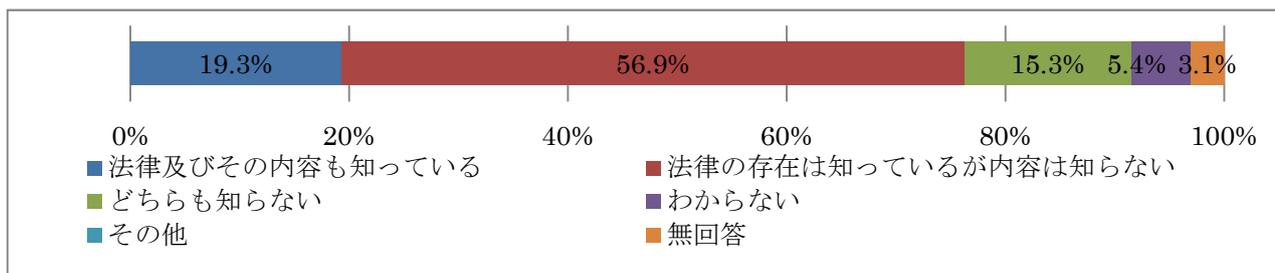


「男女ともに育児休暇や介護休暇を取りやすくし、休暇後、職場に復帰しやすくすること」が最も多く、続いて、「託児・保育施設を充実するなど、子どもをもつ男女が働きやすくすること」、「労働時間を短縮するなど、男女とも家事、子育てや教育などがしやすいようにすること」、「意欲・能力のある女性の採用、昇進などの人事面で評価すること」でした。

福利厚生充実やワーク・ライフ・バランスを重視している傾向がうかがえます。

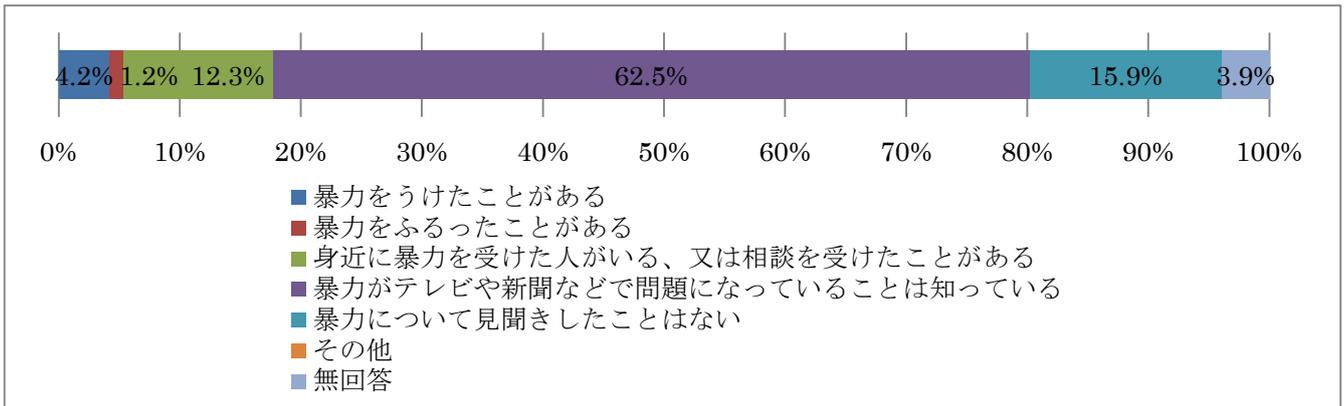
5. 暴力について

(1) 「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」(配偶者暴力防止法) についての認知度



「法律の存在は知っているが内容は知らない」という回答が最も多いという結果となりました。「どちらも知らない」「わからない」と回答した人は全体の約2割でした。

(2) ドメスティック・バイオレンス (DV) について



「暴力がテレビや新聞などで問題になっていることは知っている」と回答した割合は全体の62.5%でした。また、身近な人や自分自身にDVの経験があると回答した割合は17.7%でした。

①自分自身について

- ・暴力を受けた時の対応について

選択肢	回答数
相談機関や警察等に相談	1
家族や友人に相談	6
職場や学校に相談	0
どこにも相談しなかった	7
その他	1

相談した人と相談しなかった人は、同数でした。

- ・どこにも相談しなかった理由について（複数回答可）

選択肢	回答数
我慢すればこのままやっていけると思った	2
相談しても無駄だと思った	2
自分にも悪いところがあると思った	2
相談するほどのことではないと思った	2
他人を巻き込みたくなかった	1
恥ずかしくて誰にもいえなかった	2
世間体が悪い	1
思い出したくなかった	1
相談したことがわかると仕返しを受けたりひどい暴力をうけたりすると思った	3
どこに相談してよいのかわからなかった	0
相談すると、担当者の言動で自分が不快な思いをすと思った	0
その他	1

②身近な人について

・暴力を受けた時の対応について

選択肢	回答数
相談機関や警察等に相談	7
家族や友人に相談	9
職場や学校に相談	4
どこにも相談しなかった	13
その他	5

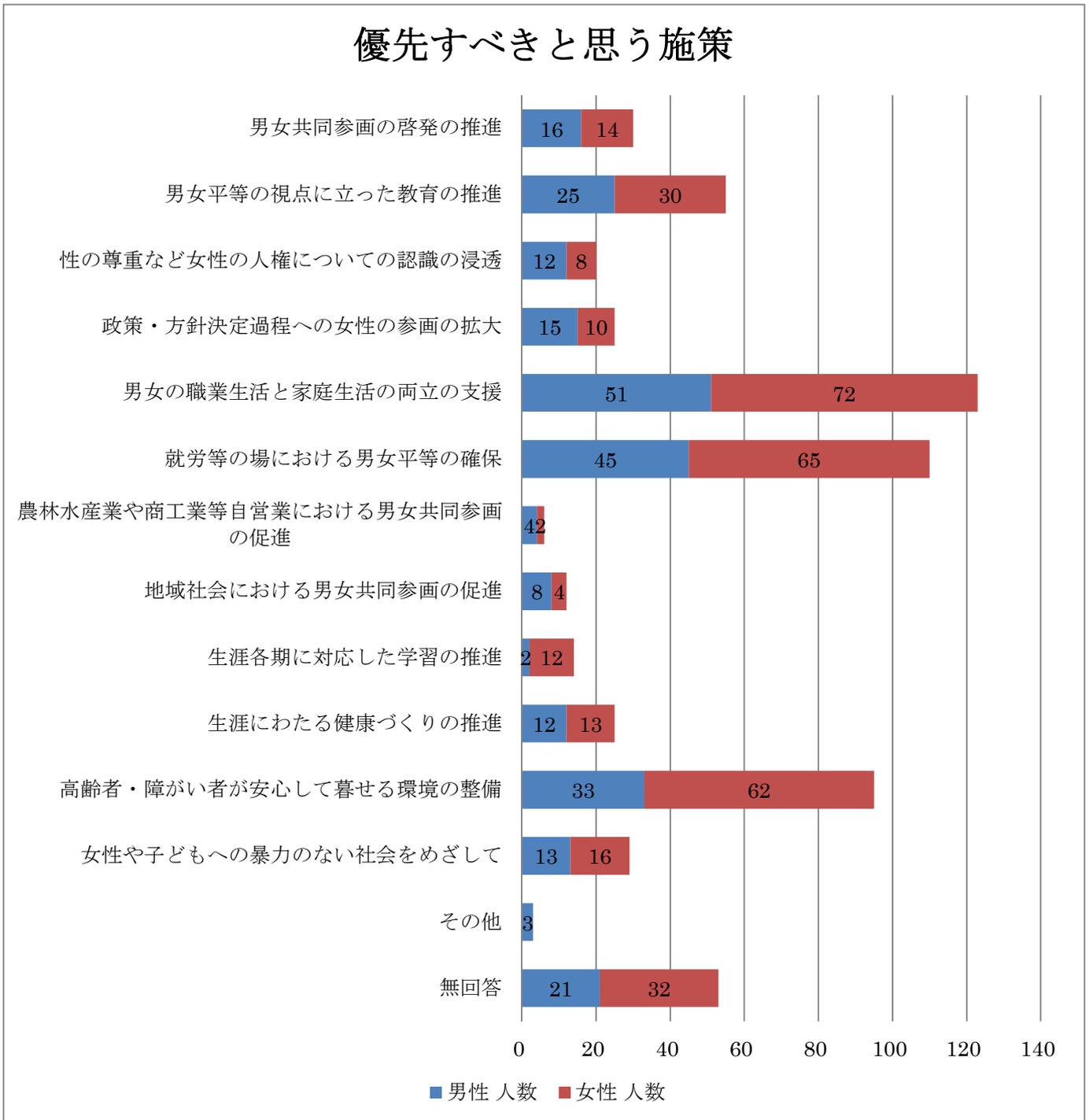
相談した人が20人、相談しなかった人が13人でした。相談した人の数が多いという結果でしたが、約4割の人は相談しなかったという回答でした。

・どこにも相談しなかった理由について（複数回答可）

選択肢	回答数
我慢すればこのままやっていけると思った	3
相談しても無駄だと思った	3
本人にも悪いところがあると思った	2
相談するほどのことではないと思った	3
他人を巻き込みたくなかった	2
相談したことがわかると仕返しを受けたりひどい暴力をうけたりすると思った	5
どこに相談してよいのかわからなかったから	5
相談すると、担当者の言動で自分が不快な思いをすと思ったから	4
その他	3

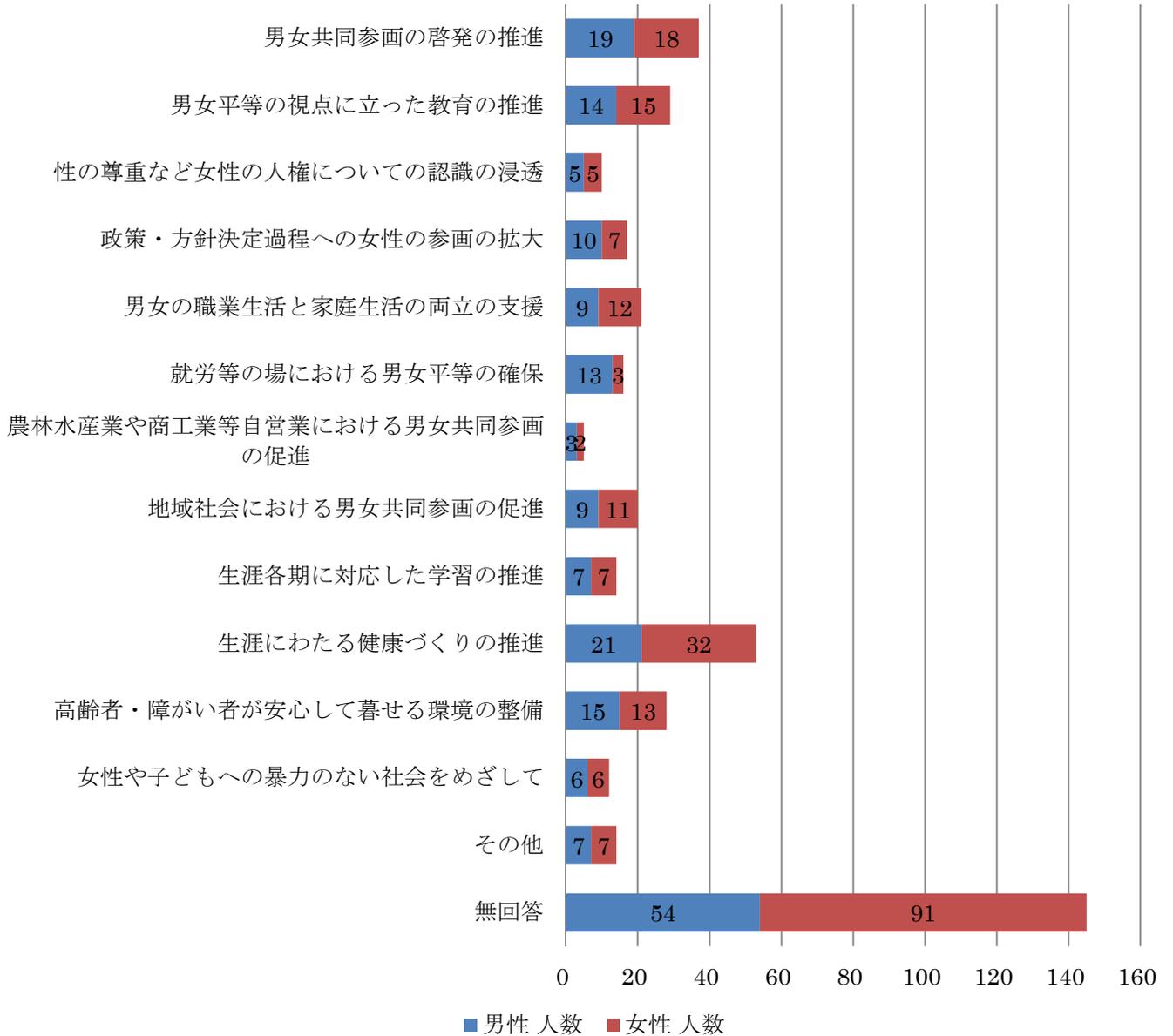
どこにも相談しなかった理由で多かったのは、「相談したことがわかると仕返しを受けたりひどい暴力を受けたりすると思った」と「どこに相談してよいのかわからなかったから」という回答でした。

6. 網走市の施策について 【複数回答】



最も多かったのが、「男女の職業生活と家庭生活の両立の支援」、次に「就労等の場における男女平等の確保」、「高齢者・障がい者が安心して暮らせる環境の整備」という結果となりました。

5年前と比べて進んだと思われる施策



最も多かったのが、「生涯にわたる健康づくりの推進」、次に「男女共同参画の啓発の推進」、「男女平等の視点に立った教育の推進」という結果となりました。